

実習指導Ⅰ－２(施設)における自主的な学びの導入について

本山 芳男

For the introduction of voluntary learning in practice teaching I-2 (facility)

Yoshio MOTOYAMA

近年、保育実習評価で「否」となる学生が散見されるようになった。そこで、2013年度の実習指導Ⅰ－２(施設)と保育実習(施設)の評価を比較したところ、実習指導Ⅰ－２(施設)で「否」となる学生は、保育実習(施設)でも「否」となる傾向があった。さらに実習指導Ⅰ－２(施設)評価において「否」となった学生の授業ノートを見ると、取り組み意欲の乏しさが目についた。そのため2014年度は、実習指導Ⅰ－２(施設)において内発的動機付けを高める取り組みをし、アンケート調査したところ学生はそのような授業が良いと回答していた。しかし、実習指導Ⅰ－２(施設)評価において「否」の学生は、軽減しなかった。

1 はじめに

保育士資格取得のために三回の保育実習(Ⅰ－１：保育実習、Ⅰ－２：保育所以外の福祉施設実習、Ⅱ：保育所実習もしくはⅢ：保育所以外の施設実習)を合格する必要がある、A専門学校では、それぞれの保育実習に対応した実習指導が設定されている。

本稿の焦点は、保育所以外の福祉実習指導Ⅰ－２(以下、「施設実習指導」という)である。その理由は、ここ数年、実習園からの評価が良くない学生が目につくようになってきたからである。

そのため2013年度において、施設実習に行く前に施設実習指導においてテストをし、保育実習評価との関連性を調べてみた。その結果、施設実習指導において評価が達成基準に達していない学生(以下、「実習指導評価否の学生」という)は、保育実習でも評価が否となる傾向が見受けられた。そして、実習指導評価否の学生の授業ノートなどを見ると、授業中のノートをとらないことや、疑問に思ったことなどの整理がなされていなかった。それらのことから、「未知なことに対して好奇心を抱き、もっと知りたいという意欲的な学びの姿勢の不十分さ⁽¹⁾」が根底にあると思われた。

そこで2014年度においては、本来学生自身が所持している内発的動機づけを解発するような授業の取り組みをし、学ぶことの楽しさを経験することでそれぞれの学生の能力が発揮

される、という仮説を立て実習指導を行うことにした。

具体的に学生の学びの意欲的を發揮させるために（内発的動機づけ）、藤の取り組みに倣って授業展開を試みた。

ここでは、そのような取り組みの結果、学生自身の自主的な学びに対する気持ちの変化やそのことが施設実習指導評価にどのように反映されるかを考察する。

2 方法

（１）対象

A 保育専門学校 2 年 45 名

（２）実施時期

2014 年度前期（４月から７月の間の 15 回）

（３）学生へのアンケート調査

① 第 1 回目のオリエンテーション時に実施（資料 1）。

② 第 15 回目終了時に実施（資料 2）。

（４）授業について

① 全体構成

ア 第 1 回目に実習指導の進め方を説明し、DVD（映像でつづる日本の社会福祉施設）を見せる。

イ 第 2 回目に学ぶ施設のグループ分けをし、7 回目まで図書室やパソコンを活用し、自主学習をする。なお、グループは、学生の希望等に基づいて施設実習の対象先となっている 7 施設（乳児院，児童養護施設，児童自立支援施設，母子生活支援施設，知的障害児入所施設：福祉型障害児入所施設，肢体不自由児施設・重症心身障害児施設：医療型障害児入所施設，障害者支援施設）に分け，リーダーの選出をする。

ウ まとめ方

まとめるに際し，各自調べる施設に関連する事柄（例えば，権利擁護，愛着，虐待，里親委託，自閉症など）について，三冊以上の著書を読みまとめる。7 回目終了時点で，各グループで取りまとめた資料を提出する。

エ 効果測定

第 7 回目までに取りまとめた内容を踏まえて，第 8 回目にテストを行う。実習指導評価不可の学生は，第 13 回目と 14 回目の間の土曜日に，再テストを行う。

オ グループ発表について

第 9 回目から 15 回目まであらかじめ指定したグループごとに発表する。発表時間は 60 分とし，その後に教員が補足説明をする。

3 結果

(1) 学生へのアンケート調査

対象となった学生は45名であるが、初回、最終回共にアンケート回答した学生は28名であった。表1はで初回授業終了後に実施した授業の取り組みに対してのアンケート結果と15回目の最終回に行った結果を表したものである。

初回の学生の意向の差を見るために χ^2 検定したところ、5%水準で有意差がなかった($\chi^2 = 5.64$ df=2 N.S.)。

次に、15回目の授業終了後にアンケートをし、その内容に差があるかを見るために χ^2 検定をしたところ、5%水準で有意差があり、「自分達で調べる」授業形態を望んでいることを示している($\chi^2 = 12.1$ df=2 $P<.05$)。

表1 初回と最終回時における授業の取り組みへの学生の意向

初回 \ 最終回	教員の話聞く	自分達で調べる	分からない	計
教員の話聞く	4 ①	9 ②	2 ③	15
自分達で調べる	0	4 ④	1 ⑤	5
分からない	1 ⑥	5 ⑦	2 ⑧	8
計	5	18	5	28

表2から9までは、表1の各枠に記載されている①から⑧の学生の各記述内容である。

表2 ①の自由記述(教員の話聞く→教員の話聞く) 4名

初回のアンケートの記述	最終回のアンケートの記述
先生の話しや前年度の話なども聞きたい。	調べたが、よく分からないままだった。
調べただけでは詳しいことが抜けてしまうことがあると思うので、先生が説明してノートに書いていく授業がいいです。	何を調べたらよいかわからなかった。
あっている内容と間違っている内容もあるので、正しい情報が分からなくなりそうなので、説明していただきたい。	期日を守る人が少なく、すごく大変だった。
グループ内での時間あわせ、まとめを作成するのが大変だから。	どんな発表をすればいいのか見本がないから。

表3 ②の自由記述（教員の話聞く→自分達で調べる）9名

初回の記述	最終回の記述
調べるのも大事だが、それだけでは理解できないことを先生の説明から学びたい。	自分達が調べ発表したほうが積極的に取り組むことが出来たし、役だった。
調べることも大切だけど、しっかりした理解や経験を積んだ先生の話しを聞く授業がいい。	自分達で調べることで理解が深められたし、最後に先生が補足してくれるのでよかった。
先生の体験談などを聞きたい。	人前で発表することに慣れるから
これ以上に調べるものが増えるのはヤダ。	与えられた時間を自分達で自由に使えるから。
先生の話しを聞きたいから。それで学びたい。	自分達で調べたほうがより一層学べるから。
	与えられた時間を自分達で自由に使えるから。
自分達で調べると、騒ぐと思うから。	自分達で調べて発表するとより理解し、学べると思った。その後、先生が付け足して説明してくれるからいい。
先生の説明を聞いて学んできたから。これからもそうして欲しい。	自分の行く施設を調べたかった。
先生の方が正しく、わかりやすいから。	自分達で調べ発表したほうが頭に入りやすい。

表4 ③欄の自由記述（教員の話聞く→分からない）2名

初回の記述	最終回の記述
先生の話しや前年度の話なども聞きたい。	調べたが、よく分からないままだった。
調べるよりも先生が説明するのがいい。	よく分からない。

表5 ④の自由記述（自分たちで調べる→自分たちで調べる）4名

初回の記述	最終回の記述
先生の説明だと寝てしまう場合があるから、自分たちで調べれば頭を使うから大丈夫だと思う。	発表するには自分で理解していないとできないのでよかったし、その後に先生が説明してくれるのでいい。
自分達で調べて取り組む方が頭に入る。	与えられた時間を自由に使えるから。
自分達で調べたほうが頭に入る。	よく分からないけどこのようなやり方がいい。
調べたことが頭に入るから。いろいろなグループの発表を聞くことが出来る。	自分で調べたことで、施設についての理解が深まった。

表6 ⑤の自由記述(自分たちで調べる→分からない) 1名

初回の記述	最終回の記述
グループでまとめることは良いと思う。	一人ひとりの意欲や能力に違いがあるので、このやり方がいいのかわからない。

表7 ⑥の自由記述(分からない→分からない) 1名

初回の記述	最終回の記述
どちらが自分の頭の中でよく理解できるかわからないから。	よく分からない。

表8 ⑦の自由記述(分からない→自分たちで調べる) 5名

初回の記述	最終回の記述
1だとサボってしまうし、2だと自分たちで調べたものが全てだと思わないから。	自分で調べることが出来るから。
まだ始まったばかりなのでどちらが良いか言い切れない。	与えられた時間を自分達で自由に使える。
どちらがいいのかわからない。	与えられた時間を自分達で自由に使える。
授業の内容による。	与えられた時間を自分達で自由に使える。
レポート評価よりテストがいいです。	自分達の発表で頭がいっぱいで、他の発表を聞けなかった。

表9 ⑧の自由記述(分からない→分からない) 2名

初回の記述	最終回の記述
何がいいかわからない。	何が何だかわからない。
みんなが分かりやすい授業が行われればいい。	みんなが理解できていればそれがいい。

4 考察

(1) アンケートによる認識

第1回目の授業の取り組みへのアンケート結果では、統計的に5%水準で有意差はなかった($\chi^2 = 5.69$ df=2 N.S)。このことは、授業開始時点での説明に対して、「わからない」と回答したものが8名いたことから、学生が取り組みの枠組みを理解していないことが影響していると思われる。しかし、統計的には有意差はなかったものの「教員の話聞く」という割合が半数以上を占めており(15/28 53.6%)、受動的姿勢での学びを期待する傾向が見受けられた。

それに対して、授業終了後に行ったアンケートでは、自主的な取り組み（自分たちで調べ、その時間を自分たちで工夫して使える等）は、統計的に多くの学生が、主体に調べ、まとめ、理解することの楽しいと回答している（ $\chi^2 = 12.1$ $df = 2$ $P < .05$ ）。この結果は、未知なことに対する学生の内発的動機づけが発動した結果をあらわしているものと思われ、今後ともこのような視点での授業での取り組みをすることで、意欲的な学びの姿勢を促進できるものと思われる。

（２）実習指導評価への反映

次に、内発的動機付けを高めるような授業展開が、実習指導評価にどのように反映しているかを見るために合否を χ^2 検定したところ、５％水準で有意差があり、合格した者が多いといえる。（ $\chi^2 = 13.89$ $df = 1$ $P < .05$ ）。

また、2013年度の研究⁽¹⁾では、各施設について第７回目まで教員が説明し、その後は実習課題の設定、個票作成、そして日誌の書き方などをした。この点に関しては、今回とは大きく異なる点である。しかしテストは、今回と同じく第８回目で行った。その折の合否の差を見るために χ^2 検定したところ、５％水準で有意差が見られた（ $\chi^2 = 3.85$ $df = 1$ $P < .05$ ）。

テストによる合否を比較する限りでは、2013年度（教員が説明し、学生の理解を深めるという形態）と、2014年度（自主的な調べにより理解を深める形態）との間に差がなかった。このことは取り組みの違いが、学びの成果に反映しないと結論付けるのは早計だと思われる。その理由として、学生のアンケートによると「自主的に学ぼうとする」取り組みが良いと回答しているからである。

そこで自主的な取り組みの成果を反映させるために、①2014年度の実習指導評価否の学生のテスト回答内容、そして②2013年度の保育実習評価の記載内容（実習指導評価否の学生が、保育実習評価（施設）否となる傾向があることから）の二点より問題点を浮き彫りにし、支援の方向性を考えていくこととする。

① テスト回答の概要

テスト回答を概観したところ、学生の中に子どもの視点を定位していないことが浮かび上がってきた。例えば、「児童養護施設グループ」のテスト内容を挙げると、「子どもが持っている力を発揮させるために保育士が心掛ける必要のある事柄をわかりやすく説明しなさい。」「子どもの最善の利益を図るためにどのようなことをすればいいと思いますか？」「被虐待児と関わる点の留意点を書きなさい。」というものである。これらは、社会的養護という場の中で、子どもがどのような気持ちで生活し、そして支援する者としての視点を取り上げたものである。子どもの立場に立って考えることは、子どもの生活世界を理解することで、その

理解に立って子どもへの共感や受容がなされ、より良い関係が構築されることにつながっていくのであるが、テストにおいては、子どもの理解という視点に思い至らないというのが共通していることであった。

② 保育実習評価否の記載

保育実習評価が否となった学生に共通していることは、子どもや実習園の先生との対人関係面において、円滑な関係が結びにくいということである。具体的には①挨拶をする。②場所、状況、上下関係を踏まえた適切な言葉使いをする。③指示されたことは直後に復唱し、指示された内容が終わった時にはその旨を報告する。④指示もしくは取り組む内容が不明な時には、不明な内容を明確にし、質問もしくは確認する。⑤自分の言動の振り返りをする(自分の言動が他者にどのように受け取られたかを考える)ことなどが不十分である等の記載がなされていた。

① ②の二点を集約すると、「自他の未分化」であると思われる。つまり自分の視点＝相手の視点であり、子どもを含めて他者の視点を自分とは違うものという見方が出来にくい(自分の中の“もうひとりの自分”の不在)といえる。それ故、本稿で取り上げた自主的な学びをする以前に、このことが出来るように支援する必要がある。具体的には、①子ども(他者)の気持ちを感じ、理解し、受けとめることが出来るような支援をすること(他者理解)、②その次に生活する場での実践をとおして子ども(他者)を理解し、共感・受容する体験すること、③そして実践と併行して施設実習指導を行い、④保育実習へとつなげていくことが考えられる。この取り組みにより相手の視点を理解し、他者とのより良い関係を構築するために必要なことを学び、併行して内発的動機付けを高める学びをすることにより施設実習指導テストにおいても基準点への到達が期待できるものと思われる。図1は、その支援スケジュールを示したものである。

図1 支援スケジュール

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8から9月
他者理解		現場実践演習(週1回程度)				
		施設実習指導				保育実習 振り返り

なお、現場実践演習の場として、「保育発表会」(学生が主となって行うもので、地域の子供達に劇などを披露する年1回の行事)、保育園や幼稚園に行っていない幼児を対象とした親子教室、児童館、保育園、福祉施設などが考えられる。

5 まとめ

今回の研究は、「実習指導Ⅰ－Ⅱにおける自主的な学びの導入」により内発動機づけを解発し、学ぶ楽しさを経験し、それを梃子に事前学習の学びを確実にすることを意図したものである。

結果として、多くの学生は自主的な取り組みをして良かったと回答し、そして実習指導の評価で基準点に達したことを示していた。しかし、このような取り組みをしても基準点に達しなかった学生もいた。その学生をつまづきのひとつとして、子どもの枠組みで考えることができ難いことが考えられ、そのための支援をする必要性があると思われる。

6 引用、参考文献

引用文献

- 1 本山 芳男「実習指導（施設）についての一考察」日本乳幼児教育学会，第24回大会研究発表論文，2014年，P215。

参考文献

藤 京子「保育実習指導（施設）における授業内容の考察と課題」 全国保育士養成協議会 第51回大会，2012年。

資料1

保育実習指導Ⅰ－2授業アンケート（開始前）

学年

今回の授業の進め方の感想をお聞きます。どれか一つ選んでその理由を書いてください。

- 1 先生が説明し、学生がそれを聞く授業がいいと思う。

理由

- 2 自分たちで調べ、発表する取り組みがいいと思う。

理由

- 3 よくわからない。

理由

- 4 その他

具体的に書いてください。

資料2

保育実習指導Ⅰ－2授業アンケート（終了時）

名前

今回の授業の進め方の感想をお聞きます。どれか一つ選んでその理由を書いてください。

1 先生が説明し、学生がそれを聞く授業がいいと思った。

理由に該当する番号に○をつけてください（重複回答可ですが、主となるものに◎をつけてください）

- ① やらない人が出てくるから
- ② 何を調べたらよいかわからなかった
- ③ 調べたが、よくわからないままだった
- ④ その他
(具体的に)

2 今回のように自分たちで調べ、発表する取り組みがいいと思う。

理由に該当する番号に○をつけてください（重複回答可ですが、主となるものに◎をつけてください）

- ① 与えられた時間を自分たちで自由に使えるから
- ② よくわからないけど、このようなやり方がいい
- ③ その他
(具体的に)

3 よくわからない。

理由

4 その他

具体的に書いてください。